

# 銅鐸博物館 開館35周年!!

～ 何度も訪れたいミュージアムをめざして～



野洲市歴史民俗博物館は、おかげさまで11月に35周年を迎えます。市民の皆さんから「銅鐸博物館」の愛称で親しまれ、全国からも古代史ファンが訪れる当館の魅力をご紹介します。  
年間を通して、さまざまな催しや体験学習を行っていますので、訪れたことがある人も、ぜひご来館ください。

## ●銅鐸博物館（野洲市歴史民俗博物館）

昭和63（1988）年11月1日、野洲町立歴史民俗資料館として開館しました。銅鐸出土のすぐ近くにあり、銅鐸を中心に地域の歴史や民俗を紹介しています。



◀ドウタクくん 野洲市観光PRキャラクター  
（野洲市観光物産協会）

1988年11月1日生まれで、博物館の開館とともに誕生。野洲市のPRに活躍し、イベントに登場するなど、子どもたちとのふれあいを楽しみにしています。

表紙写真にも掲載している日本最大銅鐸の復元品



## ●大岩山銅鐸の発見

銅鐸は、約2000年前、弥生時代に造られた青銅製の「まつりのカネ」。明治14（1881）年、小篠原の大岩山丘陵で地元の少年2人が銅鐸を見つけました。この時14個が発見され、中には日本最大の銅鐸（高さ134.7cm）があります。昭和37（1962）年にも、新幹線建設に伴う土砂採掘中に10個が発見され、あわせて24個が出土しています。

## ●博物館の催しとみどころ

銅鐸や出土品のほか、地域の歴史を学べるさまざまな収蔵品があり、学芸員が年間を通じて展示替えを行っています。また、多様なテーマで講演会や講座を開催し、開館以来続けている銅鐸研究会は次回（11月25日）で88回目になります。



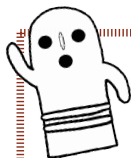
▲野洲駅ホームの駅名標



▲小富士焼 蟹絵水注  
（明治～大正期）

## ◆野洲市歴史民俗博物館友の会

開館時に設立され、現在会員約200人。博物館と協力しながら学習を進め、会員の親睦活動とともに、歴史講座・弥生の森の秋まつりなど、市民を対象とした催しも行っています。



### ★★★ 銅鐸博物館利用案内 ★★★

所在地…野洲市辻町57-1 ☎587-4410、FAX587-4413

開館時間…午前9時～午後5時（入館／午後4時30分まで、体験学習受付／午後3時まで）

休館日…月曜日（祝日は開館）、祝日の翌日（土曜・日曜日、祝日は開館）、年末年始

研修室 団体での研修や会議等に貸館もできますのでご利用ください。

市民入館無料!



## たのしくつくりよう！弥生の森体験学習

体験工房で、まが玉、土器、埴輪などの作品を自由に作ります。幼児、小学生から大人まで楽しめる体験で、体験学習指導員がお手伝いします。まが玉は古代の首飾り。弥生陶板、陶板手形は人気の記念品です。

実施日…土曜・日曜日、祝日、夏休み・春休み期間（休館日は除く）

体験メニュー…まが玉（当日持ち帰り）、土器、埴輪、土の銅鐸、土鈴、土笛、

弥生陶板、陶板手形（粘土作品は乾燥・焼成して後日お渡し）※制作時間30分～60分

※参加費要。予約不要（10人以上の団体は事前予約要）。



大賀ハス▶



### ●弥生の森歴史公園 古代にタイムスリップ！

弥生時代の生活や文化を実物大で体感できる公園です。博物館に隣接し、復元された竪穴住居や高床倉庫の中に入ることができます。敷地内にある宮山二号墳（円墳）では石室を見学。園内では四季折々の花が楽しめ、春にはサクラ、ツツジ、サツキ、夏にはアジサイ、スイレン、大賀ハス（古代のハス・6月中旬～7月中旬ごろ）が咲き、秋には紅葉に彩られた森の散策やドングリ拾いがおすすです。

## 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

228

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

### 四面の鏡

野洲市三上山下古墳から出土した2面の獣帯鏡は、群馬県高崎市綿貫観音山古墳と韓国公州市武寧王陵から出土した鏡と同型鏡として知られています。現在、市内に三上山下古墳という名称の古墳は実在せず、獣帯鏡は野洲市甲山古墳から出土したと考えられています。

同型鏡とは、原鏡となる鏡を粘土に押し当て型をとった鋳型で製作された鏡のことです。三上山下古墳とされる甲山古墳と武寧王陵が築造された6世紀前半は継体大王が活躍した時代であり、同型鏡の分配に継体大王が深く関わっていたと考えられます。

武寧王陵は、百濟第25代武寧王とその王妃の合葬墓で



三上山下古墳出土獣帯鏡（所蔵・写真提供：九州国立博物館）

す。獣帯鏡は倭国（日本）よりもたらされたものと考えられます。他にも木棺に日本列島特有のコウヤマキが使われるなど、倭国との交流を示す副葬品が見つかっています。

このようにみえてくると、中国と朝鮮半島、そして倭国の近江・東国を結ぶ東アジア規模の交流をうかがい知ることができます。

当館では、これらの鏡を今月7日から11月26日まで開催する開館35周年記念企画展「四面の鏡—海を越え、つながる王—」で展示しますので、この機会に、ぜひご観覧ください。（博物館学芸員 芦塚晶太）

### ■開館35周年記念企画展 四面の鏡—海を越え、つながる王—

「三上山下古墳出土獣帯鏡」二面（重要美術品 九州国立博物館蔵）が初の里帰り展示

会期…10月7日（土）～11月26日（日） 休館日…月曜日（10月9日は開館）、10月10日（火）、11月24日（金）

### ■記念講演会 いずれも午後2時～4時 事前申し込み不要・当日受け付け、先着80人

▽10月28日（土）「三上山下古墳出土獣帯鏡と大岩山古墳群」／花田勝広さん（元野洲市教育委員会文化財保護課長）

▽11月11日（土）「継体大王と百濟武寧王—継体朝の対外関係—」／大橋信弥さん（元滋賀県立安土城考古博物館学芸課長）

### ■担当学芸員による展示解説 11月18日（土）午後2時～